事後評価

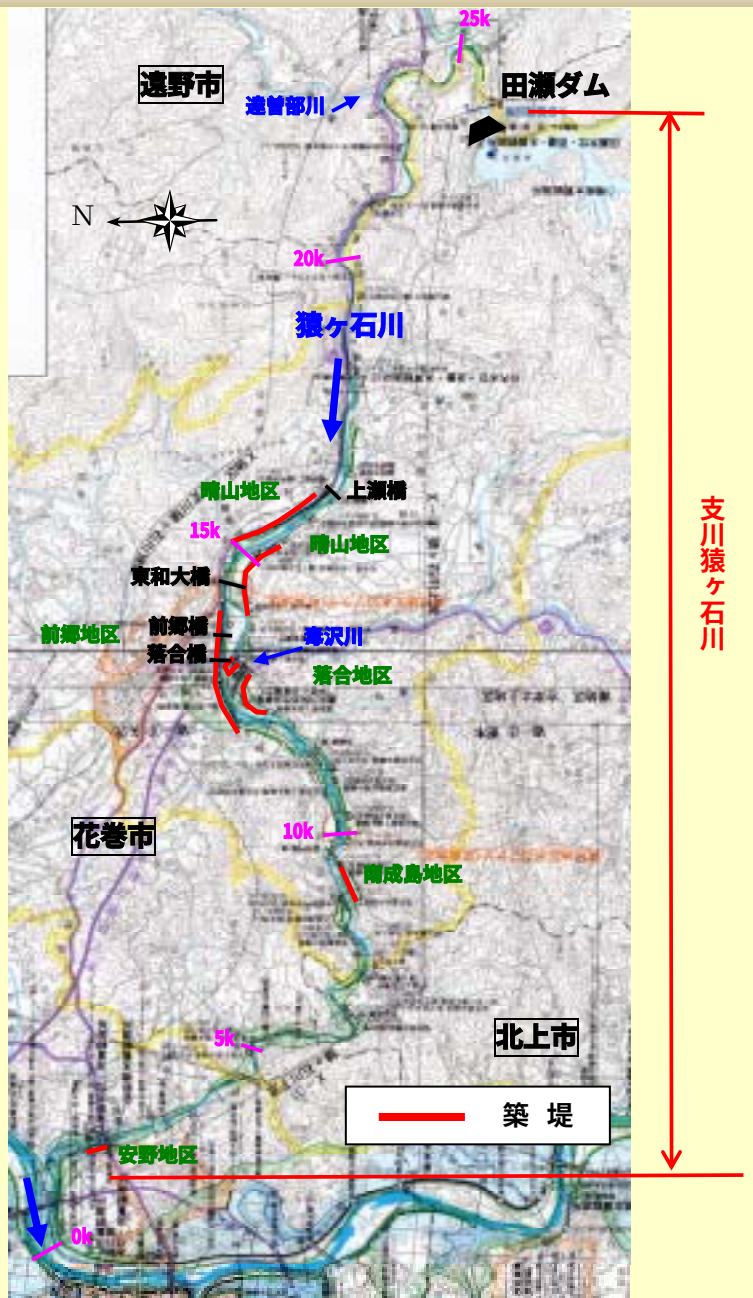
要点審議事業

北上川上流直轄河川改修事業
（支川猿ヶ石川）

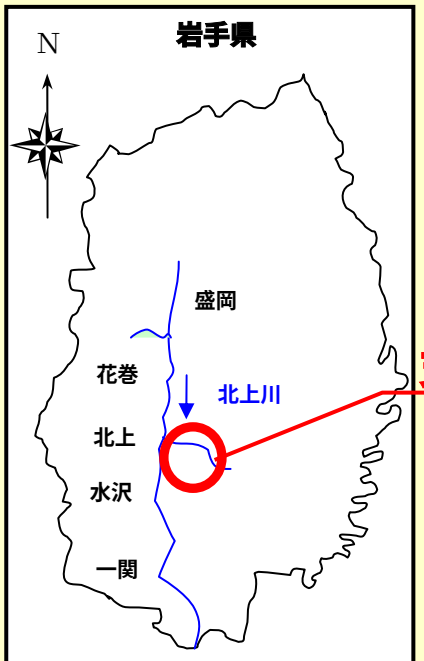
《支川猿ヶ石川河川改修事業 位置図》

● 事業の目的

本事業は、北上川支川猿ヶ石川において洪水の氾濫防止を目的として、昭和６２年度から築堤整備を進め、平成１４年度完成。



- 事業内容
  事業化　：昭和６２年度
  用地着手：昭和６２年度
  工事着手：昭和６３年度
  事業完成：平成１４年度
- 改修内容
  築堤　L=7.3km
- 事業費　３５億円



《事業内容》

●事業前（築堤前）

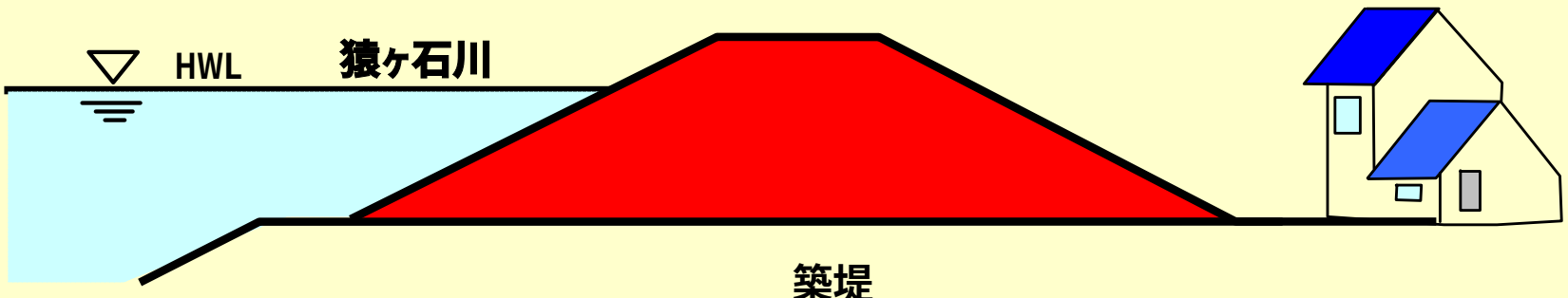


●事業後（築堤後）



● 対策工法の概要

晴山地区他



《過去の洪水における被災状況》

発生年月日	2日雨量	浸水面積	浸水戸数
昭和22年9月14日 (カスリン台風)	187mm	337ha	336戸
昭和23年9月15日 (アイオン台風)	161mm	197ha	163戸
昭和56年8月21日	149mm	9ha	1戸
昭和62年8月16日	161mm	6ha	1戸
平成14年7月9日	160mm	6ha	0戸

※猿ヶ石川直轄管理区間(0k～26k)を対象

※昭和22年、昭和23年、昭和56年、昭和62年の被害状況は計算値
(洪水発生当時のダム及び堤防整備状況を再現した結果)

※平成14年の被害状況は実績値

※2日雨量は狐禅寺基準地点の流域平均2日雨量

《 費用対効果分析》

● 費用対効果分析

		金額等
Ｃ費用	建設費（治水分）	５８.５億円
	維持管理費	1.0億円
	費用合計	５９.５億円
Ｂ効果	便益（治水分）	１４０.２億円
	残存価値	5.0億円
	効果合計	１４５.２億円
費用便益比（ＣＢＲ）　Ｂ／Ｃ		２．４
純現在価値（ＮＰＶ）　Ｂ－Ｃ		８５.７億円
経済的内部収益率（ＥＩＲＲ）		１２.１ ％

※「治水経済調査マニュアル（案）」に基づきＢ／Ｃの検討

《対応方針》

案：　改善措置及び今後の事業評価の必要性はない。

理由：　支川猿ヶ石川は浸水被害が度々発生する治水安全度が低い地域である。このため、堤防整備を実施し、治水安全度の向上を図り、地域住民が安心して暮らせる環境を整えた。